※令和４年度以降入学生用

学校番号	3018

令和５年度　商業科

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	単位数	３単位	年次	２年次
使用教科書	ソフトウェア活用（実教出版）						
副教材等	未定						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

企業活動においてソフトウェアを適切に活用することを目的としている。１年次の情報処理の発展的授業である。商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動をおこなうことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を育成していく。

２　学習の到達目標

（１）企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。
（２）企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
（３）企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	企業活動におけるソフトウェアの活用や、表計算ソフトウェアの活用をおこなえるように知識を身につけている。また、効果的な活用方法を理解しようとしている。	ソフトウェアの活用について必要な情報を取捨選択し、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ共同的に取り組んでいる。自分の考えを整理し、適切に表現している。	ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ共同的に学べるよう意欲的に授業や実習に取り組んでいる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	企業活動とソフトウェアの活用	①　ソフトウェアの重要性 ②　情報通信ネットワークの導入と運用 ③　情報資産の保護	a:企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 b:ソフトウェアを活用することの意義と課題について企業活動の改善と関連付けて見出すことができる。 c:企業活動におけるソフトウェアの活用とその環境について自ら学び、企業活動の改善に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	小テスト 定期考査	定期考査 提出課題	提出課題
	表計算ソフトウェアの活用	①　オペレーションズ・リサーチ ②　情報の集計と分析 ③　手続きの自動化	a: 表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付けることができる。 b: 企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，表計算ソフトウェアを活用して，情報を集計・分析するとともに，その結果を表現し，評価・改善することができる。 c: 表計算ソフトウェアの活用について自ら学び，情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	小テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

2学期	データベースソフトウェアの活用	① データベースの重要性 ② データベースの設計 ③ データベースの作成と操作 ④ 手続の自動化	a: データベースソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付けることができる。 b: 企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，データベースソフトウェアを活用して情報を管理・提供し，評価・改善することができる。 c: データベースソフトウェアの活用について自ら学び，情報の効率的な管理と適切な提供に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	小テスト 定期考査	課題提出 定期考査	課題提出 観察
	業務処理用ソフトウェアの活用	① 仕入・販売管理ソフトウェアの活用 ② 給与計算ソフトウェアの活用 ③ グループウェアの活用	a: 業務処理用ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付けることができる。 b: 企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，業務処理用ソフトウェアを活用して業務を効率的に処理し，評価・改善することができる。 c: 業務処理用ソフトウェアの活用について自ら学び，業務の効率的な処理に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	小テスト 定期考査	課題提出 定期考査	課題提出 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

3学期	情報システムの開発	① 表計算ソフトウェアによる情報システムの開発 ② データベースソフトウェアによる情報システムの開発	a: 情報システムの開発について実務に即して理解するとともに，関連する技術を身に付けることができる。 b: 企業活動の改善に対する要求を分析し，科学的な根拠に基づいて，情報を処理する手順を見いだすとともに，情報システムを開発し，評価・改善することができる。 c: 情報システムの開発について自ら学び，ビジネスに関する情報を処理する適切な情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組むことができる。	小テスト 定期考査	課題提出 定期考査	課題提出 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度